

会 議 録

会 議 名	令和6年度第2回東松山市地域福祉計画策定委員会・東松山市地域福祉活動計画策定委員会 合同会議					
開 催 日 時	令和6年8月21日（水）			開 会	午前10時00分	
				閉 会	午前11時45分	
開 催 場 所	東松山市保健センター 1階大会議室					
会 議 次 第	1 開会 2 あいさつ 3 議事 (1)第二次東松山市地域福祉計画・活動計画の点検・評価について (2)第三次東松山市地域福祉計画（地区懇話会の状況報告・課題の整理・基本理念・基本目標）について 4 その他 5 閉会					
公開・非公開の別	公開		傍 聴 者 数	0人		
非公開の理由 (非公開の場合)	/					
参加者出欠状況	委員長	稲葉一洋	出席	委員	福田千賀雄	出席
	委員	戸森健治	出席	委員	須藤博一	出席
	委員	松永政子	欠席	委員	金杉明	出席
	委員	島野正子	出席	委員	高谷あすか	出席
	委員	奥村一彦	出席	委員	田嶋靖洋	出席
	健康福祉部 次長 山口勉			社会福祉課長 荻野裕		
	社会福祉課副課長 忽滑谷陽一			社会福祉課主査 福島朋和		
	社会福祉課主任 岡安睦実			障害者福祉課長 小野澤俊夫		
高齢介護課長 左納徹			こども支援課長 大石和夫			

	東松山市社会福祉協議会 次長 澤井太二郎	東松山市社会福祉協議会 地域福祉課副課長 内藤高子
	東松山市社会福祉協議会 地域福祉課係長 神田満紀子	
	一財) 日本開発構想研究所 都市・地域研究部担当部長 長島有公子	一財) 日本開発構想研究所 研究員 大橋俊平
次 第	顛	末
1 開 会	(事務局開会宣言)	
2 あいさつ 荻野課長	会議の開催にあたり、稲葉委員長より挨拶をいただきたいと思 います。	
	— 稲葉委員長挨拶 —	
荻野課長	ありがとうございました。それでは、委員の出席状況等について、ご 報告申し上げます。本日は10名のうち、出席委員数は9名となってお ります。従いまして、東松山市地域福祉計画策定委員会条例及び地域福 祉活動計画策定委員会設置規程第6条第2項の規定による定足数に達 しておりますので、本会議は成立いたしましたことをご報告申し上げま す。	
	また、本会議の会議録の作成に当たり、出席委員2名に署名をお願い したいと存じます。名簿順ということで、本日の会議録につきましては 金杉委員と島野委員をお願いいたしたいと存じますが、いかがでしょう か。	
	— 異議なし —	
荻野課長	それでは、金杉委員と島野委員は、後日、会議録に御署名をお願いい たします。	
	議事に入る前に、配布資料の確認をさせていただきます。事務局より 確認をお願いします。	

	<p>— 事務局（忽滑谷副課長）説明 —</p>
荻野課長	<p>それでは、議事に移らせていただきます。議事につきましては、策定委員会条例により、委員長が議長を務めることとなっておりますので、稲葉委員長にお願いいたします。</p> <p>なお、議事録作成の都合がございますので、ご発言の際は氏名を名乗っていただいてからのご発言をお願いいたします。</p> <p>稲葉委員長よろしくお願いいたします。</p>
稲葉委員長	<p>しばらくの間、議長を務めさせていただきます。</p> <p>議事に入る前に確認事項がございます。東松山市審議会等の会議の公開に関する要綱では、公開・非公開の決定を会に諮って決めることとなっております。公開の場合、傍聴希望者がいらっしゃれば、傍聴いただくことになります。</p> <p>事務局にお聞きします。本日、傍聴希望者はいらっしゃいますか。</p>
忽滑谷副課長	<p>傍聴希望はありません。</p>
3 議題	<p>それでは、本日の会議を公開とし、議事に移ります。</p>
稲葉委員長	<p>議事1、第二次東松山市地域福祉計画・活動計画の点検・評価について、事務局より説明をお願いします。</p>
福島主査 社会福祉協議会 内藤副課長	<p>— 資料1について説明 —</p> <p>— 資料2について説明 —</p>
稲葉委員長	<p>二次計画は2020年度から始まったわけです。ですから2年ちょっとはコロナ禍で、人と関わったり繋がったりすることに丁重にならざるを得ませんでした。そのような中で今の二つの計画を評価・点検したところ、個別事業に関しては概ね実施できたという報告もあったわけです。そして新たな課題や取り組み内容を入れてきたのだという感じがします。ご意見、ご質問等いただきたいと思います。いかがでしょうか。</p>

<p>福田委員</p>	<p>資料1について2点ほどお伺いします。まず1点目、資料1の1ページ「地域づくりに携わる団体の連携・協働」の中にある「このゆびと～まれ！フェスタ」についてですが、今まで2日間開催していて、今後は1日開催にするということになっています。今まで北地区体育館と南地区体育館それぞれ1日ずつ行っていたものを、今後は南地区体育館1日開催ということで、少なくなった理由を教えてください。</p> <p>2点目、資料1の2ページ目にある「市職員による出前講座、子どもと高齢者との交流、認知症サポーターの養成を行った。」という内容ですが、子どもと高齢者との交流とはどういったものがあるのか、具体的なところを教えてください。</p>
<p>大石課長</p>	<p>まず1点目、フェスタに関してですが、コロナ禍により1日で開催するのが難しいという状況があったため、人数制限を設けて2日間で開催しておりました。ただコロナが収束して、人数制限なしで開催できるので1日ということになりました。また、協力団体の方から2日間だと体力的にも厳しいというお話がありまして、こども支援課としては2日間開催したかったところではございますが、団体の事情を踏まえて1日の開催とさせていただきました。</p>
<p>稲葉委員長</p>	<p>ありがとうございます。他に事務局、補足お願いします。</p>
<p>左納課長</p>	<p>2点目の質問ですが、「子どもと高齢者の交流とはどのようなものか」に対する回答としまして、唐子地区にある市民健康増進センターで小学生や高齢者との交流を目的とした「工作教室」を企画したものです。</p>
<p>稲葉委員長</p>	<p>ありがとうございます。先程、点検・評価について説明をされた後に、資料にはない点も指摘がありました。計画を考えていく上で大変重要な指摘だと思っております。</p> <p>1つは支援の手法についてですが、より効果的な手法を編み出していく、あるいは現状に合った形で手法を変えていくということが行われているわけです。2つ目として、個別事業のところはおおよそ目標達成できていますが、個別事業だけを見ているのはどうかという指摘がありました。</p> <p>この計画を考えていくときに極めて重要な課題だと思っております。</p>

て、個別事業では評価をしたけれど、施策の方向性としての評価はどうか、基本目標としてはどうか、ということです。

地域福祉がどう進んだのか、課題が何かというのは個別事業の段階だけで見ているのは駄目で、やはり全体像が見えなければいけない。そういった意味では、地域福祉の全体像を示すところまで歩を進められると順調な進展になっていくのかなと思います。

全体の理念のところを考えますと、社会福祉協議会の活動計画との連携を踏まえて見ていかなくてはいけないと思います。社会福祉協議会の計画と行政の計画が別にある、それらが合わさって東松山市の地域福祉を進めていくのだということでもありますから、そういった点では行政と社会福祉協議会との両方を十分加味して突き合わせながら進めていき、全体像へとつながってくるのではないかと思います。

そのこととも関わるのですが、社会福祉協議会の計画を見ていただくと第一層協議体、第二層協議体という言葉がよく出てきますが、一層や二層の協議体がどこまでできてどんな課題を持っているのか、どんなことを目指しているのかという、全体が見えていないと思います。個別の事業だけ評価されても全体が見えない。先程、行政で言われた個別事業ではない、今一度、施策や目標のレベルで何を達成できたのか、何が課題なのかということを見ていかないといけないと思います。

地域福祉コーディネーター、生活支援コーディネーターも同じです。いわば協議体というのは仕組み、仕掛けであります。具体的に専門的な支援をしていくところで見ると、地域福祉コーディネーター、生活支援コーディネーターといった担い手についても目標というものが出てきます。東松山市では7つの地域に分けていますので、社会福祉協議会の計画でも地区別プランというのを7つ作っています。それら7地区と協議体との関連や、担い手を支援する方向との関係などは、個別事業の段階でしか見えていません。ですから第三次計画のときは、形が見えたところで議論を進めて行けるのかなと。個々の事業レベルに最初こういう積み重ねがあり、第二層の協議体のところでこんな指摘が行われています。7つの協議体のうち2か所はできていない。できていないならどうするか、何を狙っているのか。おそらく2か所は活動があまり活発化していない、そこもあまりわかっていません。

本当は第二層協議体の、現状分析と評価と課題、方向性などを検討しながら事業は考えられると思うのですが、それを地域福祉は地域の人に

	<p>参加してもらおうということが大切だと考えるのであれば、もう少し「見える計画」というのを第三次計画のところでは組み込んでいただきたいと思いました。</p> <p>良いなと思ったのは、地域包括支援センターとの関連を検討しているところです。</p> <p>唐子で社会福祉協議会の支部役員をしており、第二層協議体のメンバーでもあります。やはり細かい支援の手法や方向、地域の課題というのは、もう少し地域ごとの行事の深まりなどについて各7地区で目指し、各地域には、それぞれ色々な役割を持っている人もいれば地域のことがわかる地域福祉コーディネーターや社会福祉協議会の職員も専門職員がいます。そういうところで事業をやっていくと、地域のつながりも出てくるし、課題も出てきます。それで共有できると思います。</p> <p>市主催の事業もいいのですが、地域の事業に力を入れて地域の課題を吸い上げることが有効かと思います。ただ、第二層協議体はもう予算がありません。実際、社会福祉協議会の唐子支部と一緒に連携してお金を出しながら事業を続けています。そうすると子どもから高齢者まで一緒に事業ができます。子ども世代・親世代・高齢者世代の顔の見える範囲の事業に予算を下ろしていくという方向性も一つ必要なと感じました。社会福祉協議会の職員のパワーや予算の都合があると思いますが、担当者がすごく忙しく、人もどんどん変わって行って、なかなかそのあたりが大変だなあと感じております。</p>
<p>島野委員</p>	
<p>稲葉委員長</p>	<p>ありがとうございます。今のは意見ということですね。地域の中から事業を積み重ね、その中から課題を見つけていくと。一つは予算と職員の指摘ですね。予算というのは見えにくい、触れた方がいいところははっきりさせておいた方がいいと思いながら聞いていました。それから職員の方、マンパワーですね。それは行政の職員の方も同じだと思いますが、やはり仕事が忙しいということでしょうか。</p>
<p>須藤委員</p>	<p>全体的に共助の部分に関して、お金の出所が問題になっています。活動するにあたっては、自治会の会費の中や寄付金、赤い羽根などの募金を使って共助の部分の活動をしています。市からはお金は出ていないと思います。自治会やシニアクラブもそうですが、皆さんのご奉仕だけで</p>

	<p>やるのではなく、お金のかかる部分についてはある程度、市の予算をとってもらって活動しやすいようにしてもらえたらいいかなと思います。</p> <p>現状として、自治会やシニアクラブに入っていない人が行事に参加したいという声が結構出ています。自治会に入っていない人、シニアクラブに入っていない人は、出られません。全体に声をかけたとしても、会に入っていない人は参加できない状況です。</p> <p>また、「シニアクラブと同じ活動をしているので、補助金はもらえないのか」とか、「シニアクラブの活動に参加させてほしい」とか、いろいろ意見があります。自治会の方でもお祭りとか色々な行事をやっています。会員でないけどそういうものには参加したいという意見が結構出てきております。その辺のところは三次計画に活かしていただきたいと思います。</p> <p>自治会もシニアクラブも、会員からお金をもらって活動しています。市からも補助金をもらっています。会費を出していない方たちが良いところだけ参加したいということになると抵抗がありますので、その辺は市が全体的に市民のためになるのであれば、そういう事業に補助を出さず、補助を増やすといったことをしていただければいいのではないかと思います。</p>
<p>稲葉委員長</p>	<p>ありがとうございました。この前、社会福祉協議会の会議で気が付いたことがありまして、東松山市では会費を全部地区に返還しているのです。財源の問題というのは、どこから出すかという問題とどういう風に出すかという問題があるかと思います。</p>
<p>戸森委員</p>	<p>お金のことは難しいですが、実際は自治会の事業に関する参加制約というのはないはずで、そういう活動はしてないはずで、社会福祉協議会は、会費をいただいて各地域にリターンされて、活動しているのかと思います。</p> <p>先日、自治会連合会の研修において、会員の会費が100円だったら非会員は500円とか、参加費を工夫したらどうかというアドバイスをいただきました。東松山市では、自治会が121ありますから、私も全部の地域がわかっているわけではないですが、そこまでの制約を付けたものはないのかなあと思っています。</p> <p>それから第二層協議体の話がありましたが、実際に事業を実施するの</p>

<p>金杉委員</p>	<p>はそれぞれの社会福祉協議会の支部ですので、協議体を強調されても分かりにくいと思います。協議をして実際の活動に結びつける方が大事だと思いますので、そのところは支部という言い方をするとおかしいですが、多少の違いがあってもいいのではないかなと思います。やり方は共通ではなく、地区に合ったもので良いのではないかと思います。</p> <p>東松山市の花、ボタンの持っている意味を、私は今まで考えなかったのですが、この花言葉の中に「誠実」という意味があります。どちらかというと「高貴」という、華々しい、華やかなイメージがありますが、その花言葉の一つの「誠実」という言葉がとても気になります。これから人口減少や少子高齢化、そして色々な担い手の人たちがいなくなる。それでも人は誰かを頼りにして生きていくという部分において、この「誠実」という言葉はとても大事だろうなという風に思います。今後の計画の中でも「誠実」という形の中で東松山市の計画を作っていただければと思っています。</p> <p>そして、「お金」という部分はとても重要だと感じるのですが、「誠実」に物事を進めていくと実はお金もいらない、そんな気がします。私もこの間に何件かの事業に関わりました。実はこの夏休みに週1回、自治会館を利用して子どもに勉強を教えながら一緒に遊ぼうというのを実施しています。次にどういう風にしようかというのも実は考え始めています。この事業を始めた方が民生委員である私と知り合いで、お話をいただいて、私は夏休み期間、月曜日に参加しています。</p> <p>同時に高齢者のお話しをする場に月に1回行っており、月に1回は子どもたちも参加して、8月26日には2回目になります。高齢者の方と子どもたちが、一緒におもちゃのボーリングゲームを行いました。こういう機会がなかなか今はなく、高齢者もお話しはするけれども子どもと遊ぶことはほとんどないですから、でも一緒に物事をすれば、一緒に遊べるなと思います。</p> <p>今年の夏はとても暑くて、家でクーラーのない方、あるいはクーラーがあってもお金がかかってもつたいないと思う方は、図書館などの公的施設に行けば涼めるよねという意見がありました。でもちょっと距離があって行くのは億劫な人のために、子どもも高齢者も自治会館を利用できればいいのではないかと思います。昔と比べて、自治会館はそんなに利用されていないので、自治会館を新たな方向で利用してもらうのは</p>
-------------	--



	<p>どうかと思います。これは自治会長さんと話し合うことになっているのですが、同時にクーラーを使って高齢者の安全を守るという部分においては、お金がかかりますから簡単にはダメだとは思いますが、行政が使った電気代金を補助してくれる制度を取り入れてもらえたらありがたいと思っております。</p> <p>地域にはごみ集積場に困っている所があります。高齢者が多くなると、ごみ出しに問題があったり、ごみ置き場があることによって環境が悪くなるという課題があります。その環境をどういう人たちが直してくれるかという、行政も直さないし、地域の中で直す人もいない。昔は道普請(みちぶしん)ということがありましたが、今はない。こういう中で、地域で先頭に立って動いてくれる方がいない。自分はやらなくても誰かがやってくれるだろうという形だと荒れる一方です。自分が最低限でもお金を多少出すと自分もその事業に参加したという形になります。自分たちがどなたかに頼むというだけではなく、自分も参加しながら自分たちの環境を整備するというのも大事だろうなと思っております。</p> <p>以上長くなりましたが、民生委員として相談を受ける中で、私たちがこの地域の中で何をすることが重要かという視点で相談に乗ることが重要なんだなという姿勢で、これからも地域福祉に取り組んでいきたいと思っております。</p>
稲葉委員長	ありがとうございます。他はいかがでしょうか。
福田委員	資料2の4ページ「生活困窮者への包括的な支援体制の充実」「子どもへの支援」があります。この中で「子ども食堂応援団体との情報交換を行った」とのことですが、こういったことは非常に良いことかなと思います。ただ仕組みづくり、ヤングケアラー支援については現時点で支援の仕組みづくりはできてないということで、仕組み作りは本当に必要だなと思います。仕組み作りができていない中でなかなかヤングケアラー自体を把握するのは難しいかなと思われるのですが、実際ヤングケアラー自体を把握しているかどうかをお聞きしたいです。
大石課長	ヤングケアラーに関しては数年前に小中学生を対象にアンケート調査を実施しております。その結果についてですが、少ない数のヤングケアラーがいることは把握しております。今後アンケート調査の実施に関

	<p>しても検討している状況であり、その結果を元に参考にしながら新たな仕組みづくりなど検討していければと考えております。</p>
稲葉委員長	<p>他はいかがでしょうか。</p>
戸森委員	<p>施策の方向の「市民の活躍の場の充実」という中に、「シルバー人材センター」と書かれています。「市民の活躍の場の充実」にこれはちょっとピンとこないため、これは何なのかなと、ちょっと違和感があります。</p>
稲葉委員長	<p>ご意見があったということで。他はいかがでしょうか。</p>
高谷委員	<p>今、自発的に共助をすることや、人と人とのつながりが伝ってないというような感じがします。でも地域で何かをしたいという方たちは、パワーがあると思うので、そのきっかけを地域に作ることできっと人と人がつながってそこに共助という強いものが生まれてくるのではないかと思います。それぞれの地域での取り組みがある中、そこから地域課題が、それぞれの地域で生まれてくると思います。前回の委員会で、関係団体からヒアリングをする際に、三次の計画を立てるのに二次と同じ団体から意見を求めるというのがありました。そうではなくて、それぞれの地域にある団体や活動している方をもう少し細かく知ることによって、きっと地域独自の課題というのが見えてくると思いました。ヒアリングというのも課題を抽出していく中で個から全体の課題を抽出していく中ではとても大事なところになってくると思いました。</p>
稲葉委員長	<p>ご意見としていただければと思います。他にないようであれば次の議題に移らせていただければと思います。</p> <p>議事2、第二次東松山市地域福祉計画・活動計画の点検・評価について、事務局より説明をお願いします。</p>
日本開発構想研究所 長島担当部長	<p>－ 資料3について説明 －</p>
福島主査	<p>－ 資料4、資料5について説明 －</p>

<p>稲葉委員長</p>	<p>ありがとうございました。今、資料3、資料4、資料5について説明がありました。基本理念及び基本目標に対するご意見等いただければと思いますがいかがでしょうか。</p>
<p>須藤委員</p>	<p>現状では地域の担い手という形で活動しているのは60歳以上の方がほとんどだと思います。そして支援を受けるのも60歳以上。その中で、共助の核になっている地域の支援団体がどんどん衰退しています。それを何とかしないと担い手がいなくなってしまうのではないかとこの心配をしています。自治会等が衰退しないように市の方でなんとか打つ手がなくなっていくところですが、計画は問題ないのですが、その担い手がなくなってしまうのではないかとこの心配です。多分若い人に期待しても生活が一杯だとかいろいろあると思いますので、高齢者の人たちが積極的に動ける施策ができればいいかと思っています。第三次計画の中では、各支援団体の活性化という風に入れていただきたいと思っています。</p>
<p>稲葉委員長</p>	<p>ありがとうございました。他にいかがでしょうか。</p>
<p>福田委員</p>	<p>資料5の「基本目標」各案の中の「基本目標2：支えあう」の「災害時の地域の相互支援の必要性を多くの住民が感じている」というところですが、他のところでは「市民」という表記になっていると思いますので、「住民」ではなく「市民」に統一した方がいいかというのが一点です。もう一点、その次のページ、3の施策の体系の基本理念ですが、一番最初のところでは「地域で支え合う」となっていますが最後は「支え合い」になっているので、これはどちらなのでしょう。</p>
<p>稲葉委員長</p>	<p>一つは「市民」と「住民」が混在しているという点。もう一つは「支え合う」なのか「支え合い」なのかという点です。</p>
<p>福島主査</p>	<p>一点目についてはご指摘の通りでございまして、こちらは「市民」という形で修正をさせていただければと思います。</p> <p>二点目の基本理念でございしますが、資料5の一番最初のページでは「地域で支え合う」となっております。最後のページでは「地域で支え</p>

	<p>合い」という風になっておりまして、この違いでございますが、「地域で支え合う」とした場合には、これは「東松山」という言葉にかかってくるということになるかと思えます。一方で「地域で支え合い」とした場合にはそのまま「自分らしく暮らせるまち」というところにかかってくる、このように文稿の上ではそういう風になってくるかと思えます。</p> <p>先程の説明の中で申し上げました通り、この「支え合う」ということと、自分らしく暮らすということを対比させるような、関連させるような表現にしたいという意図がございますので、この部分ですが事務局案といたしましては「支え合う」ではなくて「支え合い」という形で表現したいと思っています。</p>
<p>稲葉委員長</p>	<p>一つ目について「市民」で統一ということで、社協の方で何か支障はないでしょうか。「住民活動」という言葉が使われることもしますが、社会福祉協議会の方でも問題なければ「市民」で統一というやり方で。他、いかがでしょうか。</p>
<p>社会福祉協議会</p>	<p>－「市民」に文言を統一ということで同意－</p>
<p>戸森委員</p>	<p>自助・共助・公助というが、これらは公助がきちんとあるから自助・共助できるという形ではないかと思えます。同一ではないはずですが。公助は自助・共助を支える最後の砦なので、基本的なところだと思います。そのため、公助は別ではないでしょうか。公助があるから我々としては自助・共助を頑張ってみようというのが本来のスタンスだと思います。私は基本的にはそう思っています。</p> <p>また、防災・防犯対策の取り組みの拡充をしようと思ったら、つなげるところは社会福祉協議会だけではないと思います。その他の色々な機関との連携が必要になってくるのではないのでしょうか。</p> <p>今後の地域福祉活動は、例えば小学校単位など、地区で考えていかないと回らなくなっていくと思います。要するに現場で考える、実態から考えること。それぞれの団体が本来の活動趣旨や役割に基づいて活動を行うことが継続につながると思えます。</p>
<p>稲葉委員長</p>	<p>自助・共助、この言葉は30年ぐらい経っています。日本の社会、地</p>

<p>金杉委員</p>	<p>域計画の中では大体この言葉が使われることが多く、東松山市の第一次計画を作る際も議論がありました。</p> <p>1994年位から、自助・公助・共助はかなり定着しています。しかし第一次計画の委員の一人から、公助ありきではないかという意見もありました。自助から始まったのでは自助の成り立ちようがないではないかと意見がありました。</p> <p>日本で3つの枠組のうち最初に使ったのは公助でした。そして共助、最後に自助ときていました。1994年以降そういう使われ方となりましたが、公助の重要性を記録していただいて、地域の実態に則してやるということです。</p> <p>それと防犯のところは市民の方の意識にしても他の地域にしても、かなり意識が高い。そこはなんとかスムーズにつなげることが大切ではないかと思います。地区の社会福祉協議会だけでは駄目だと言っているところもありますので、地域の実状に則して行っていく必要があるなど思っています。</p> <p>私はこのところ、責任を取らないリーダー、これが必要なのではないかと考えています。地域によって、「この部分を私はやってもいいよ」と思っても、「じゃあ、あなたは良い人だから次のこともお願いね」ということになると、これはまた別の話になってきてしまいます。「このことはできるけど、ここまでは嫌だ」と、こういう方は高齢者社会において多分多いと思っています。何かをやりたい、ボランティアをやりたいという方、結構多いと思っていますが、「責任を伴ってまではやりたくない」、これが実は担い手不足の一つの要因であると思っています。</p> <p>ちょっと自分でも活動を楽しみたいなど思っても、終わったときに「今度これお願いね」という形で責任を伴って何かをしていくとなると、これはかなり本人への負担になるので、「それは嫌だよ」という人は多分多いと思います。そういうものではなくて、今言ったように「責任を感じさせない形のリーダー」として、これからの人材を養成していく方法が何か考えられないかとも思っています。</p> <p>これから人が少なくなる中でも、課題というのは多分一杯あるのだと思います。それを充足していくためには、それなりに合った形のリーダーを作っていくというのも、まちづくりの中では重要だと感じます。社</p>
-------------	--

	<p>会福祉協議会も同じだと思います。色々な地域貢献において、地域共生の中で「断らない支援」のためには責任を負わせない、リーダーを作って行ければと思います。さらに担い手不足の不安も解消できればと思います。</p>
<p>稲葉委員長</p>	<p>ありがとうございました。有言責任みたいなものでやってくれと、きっとそれは本人がやりたいと思ってやったことをやるのだと、そういったところに力点を置いてリーダー養成をしていく必要があるのだということだと思います。</p>
<p>須藤委員</p>	<p>市では、地域福祉計画を作成していて、社会福祉協議会では、地域福祉活動計画を作成し、両輪でやっているという話を聞いておりますけれども、実際には市と社会福祉協議会が一緒になって作っているのでしょうか。基本目標は同じ、施策の方向性は社会福祉協議会と市の方では違うと思うのですが、実際には活動計画の方は細かく、実際に「こういう風にするよ」と作って、市の方は「大まかなものを作っている」でも一緒に作っているという形なののでしょうか。</p>
<p>稲葉委員長</p>	<p>事務局、いかがでしょうか。</p>
<p>福島主査</p>	<p>一体的に作っていると考えております。ただもし不足している点があったり、さらにこうした方が連携が深まるのではないかというご意見があれば、そういう点は第三次計画に反映できたらと思っております。</p>
<p>須藤委員</p>	<p>別々に計画を作っているということによろしいのでしょうか。</p>
<p>福島主査</p>	<p>別々ではなくて、本日のように合同で会議も実施しております。基本目標のところまでは共通のものを立てているということもございまずので、連携・協力しながら一体的に作っていると理解しています。</p>
<p>稲葉委員長</p>	<p>ありがとうございました。他にありますでしょうか。ないようでしたら、以上で2つの議事終了となります。ご協力ありがとうございました。進行、事務局にお返しいたします。</p>

<p style="text-align: center;">荻野課長</p> <p style="text-align: center;">忽滑谷副課長</p> <p>4 閉会</p> <p style="text-align: center;">荻野課長</p>	<p>続きまして、4 その他について、事務局からご説明します。</p> <p style="text-align: center;">－ 策定委員の任期、次回会議日程について説明 －</p> <p>最後に、閉会の挨拶を山口次長にお願いします。</p> <p style="text-align: center;">－ 山口次長挨拶 －</p> <p style="text-align: center;">（事務局閉会宣言）</p>
<p>上記会議の顛末を記載した内容について、相違ないことを証します。</p> <p>令和6年9月27日                      署名委員    <u>          金杉 明          </u></p> <p style="text-align: center;">署名委員    <u>          島野 正子          </u></p>	